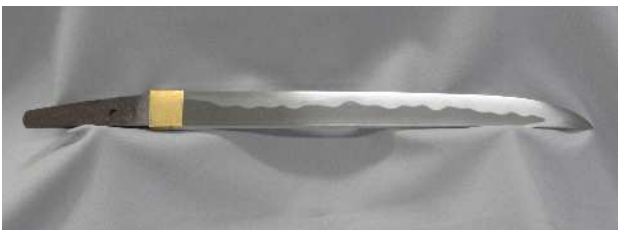




久米の刀鍛冶 平塚寿次

所沢市文化財保護委員 金井秀人

令和 7 年 2 月 4 日から 28 日まで開催した第 5 回「所沢市文化財展」では、市指定文化財（工芸品）「刀 銘 武州久米住平塚信濃守末孫寿次作」及び「脇差 銘 武州久米住人君万歳寿次」、「脇差 銘（表）武州久米住源寿次（裏）源光人造門人（瓢紋）」を展示しました。所沢にかつて刀工が存在したこと、さらにその日本刀が遺されていることはあまり知られていないため、本紙面でも改めて取り上げたいと思います。



脇差 銘 武州久米住人君万歳寿次

1. 平塚寿次について

江戸時代末期の嘉永（1848～1854）頃から明治初期にかけて、久米の平塚一族の中に、平塚源重、刀工銘を「寿次」と名乗る人物の存在が知られています。源重は文政 10 年（1827）5 月 15 日、父源十の長男として久米村の鍛冶屋敷（現所沢市久米地内）にて生まれました。

平塚家は古くから鍛冶職を生業としてきたとされますが、源重を除いては刀工であった資料は確認されていません。源重は若くして刀工修行の為、江戸に出向いたと推測されます。一部の刀剣書には「君万歳寿次」江戸住・天保頃」の記載があります。

2. 寿次の刀工系譜

寿次の刀工系譜については詳細を記した書物は極めて少ないものの、一部の刀剣書には浜部寿実(としざね)門と記されています。浜部寿実は因州浜部寿格(としのり)の子で多くの刀工を育てた名人としても著名であり、江戸での作刀期間もありますが寿次との関係は不明です。

寿次の作風を見ると田舎鍛冶風ではなく刀工による指導の下、作刀していた事が作品の丁寧さからも伺えます。当時の江戸には多くの刀工派が在籍したものの、何処の派で修行したのか推測するのは困難です。

3. 銘文の種類

寿次の銘文は現在 6 種が確認されていますが、その他 2 種（(7)と(8)）に関しても同人と思われるものがあります。

- (1)武州久米住平塚信濃守末孫寿次作
- (2)表・信濃守弘包末孫寿次 裏・八幡山置作
- (3)表・武州久米住人君万歳寿次 裏・二月日
- (4)武州久米住君万歳源寿次
- (5)武州久米住万歳寿次
- (6)武州久米川住寿次
- (7)君万歳寿次
- (8)寿次



武州久米住人君万歳寿次の銘

古来、日本刀の銘文には表に作者名、裏に製作年月を記した物が多いものの、寿次の場合、年期を記した物は二月日と記された1口のみなので活躍期の把握を困難にしています。(2)の銘文の「八幡山置作」は八幡山に於いて作るという意味ですが、八幡山とは久米にある地名なので他の銘の久米住と同じ意味です。(7)の「万歳寿次」銘の物は寿次が江戸にて修行中の物ではないかとも考えられます。

4. 寿次の門人について

元来、刀鍛冶が作刀する場合必ず2~3人の先手を必要とし、先手は向こう槌という長い柄の大ハンマーを用いて刀匠の指示に従って鍛錬作業の補佐をします。弟子がいる場合は弟子が先手を務める場合が多いものの、向こう槌には専門の職人や渡り職人もいて、向こう槌職だけを生業とする職人もいました。久米地域は鍛冶職も多かったと思われ、専門の職人もいた可能性があります。

寿次の門人については、それと知れる脇差が1口現存しており、表の銘文に「武州久米住源寿次」裏に「源光人造門人(瓢紋)」と刻してあります。刀工が合作等で銘を連記する場合、立場が上の人を表や上部に切る事が多く、光人の場合も表は師匠で裏を自身にした物です。



脇差 銘 (表) 武州久米住源寿次
(裏) 源光人造門人(瓢紋)

作風は寿次の物と相違する点があり、焼き刃と茎仕立ては寿次より劣っているものの、地鉄は良く詰み丁寧な作風です。これを察するに、焼き入れと茎仕立てを弟子である光人の手になる物で、途中まで師である寿次が鍛えた可能性があります。

表の肌合いに樹輪空(じゅりんもく)と呼ばれる独特な物が現れていますが、樹輪空とは下原刀工に顕著に出る肌合いです。下原刀工とは、室町時代末期に、相州小田原から武州下原(現東京都八王子市)に移住した刀工一派で、この作風が寿次の作風かは不明ですが、前記した寿次2字銘の作は刀剣書では下原物とされています。寿次の作か光人の代作ではないかという疑問や作風から近隣の八王子の下原刀工との関わり等も考慮出来るものの、なにしろ資料が無いので裏付けは困難です。光人の作品もこの1口のみなので師と共に廃刀令以降、廃業に追いやられたのかもしれませんが。

5. 信濃守弘包について

信濃守弘包は刀剣書によると初・2代が存在します。初代が奈良手貝町から伏見に移り、のちに大阪へ移住した手掻派の刀工です。文殊八郎右衛門と称し作刀銘は「弘包」「信濃守弘包作」「信濃守藤原弘包」で作刀年期の確認出来る物は「元和二」(1616)「寛永十三」(1636)があります。2代の名は市之丞・市兵衛と称し、文殊また包永十一代孫に加え「信濃守弘包」「信濃守藤原弘包作」「信濃守藤原弘包」と銘を切りました。年期が確認出来るのは「寛文十二」(1672)「延宝五」(1677)であり、江戸にても打つとあります。

6. 弘包と平塚家の関係

弘包と平塚家の関係は、寿次の銘文の中に血縁関係を裏付けるものがあります。「平塚信濃守末孫」と「信濃守弘包末孫」です。

また、2代弘包の製作年期が確認できる寛文十年(1670)の脇差と十二年(1672)の刀で、銘文中に「武州入間郡宿屋太郎勝平所持之」と記されたものがあります。宿屋太郎勝平の住む毛呂山と平塚家の久米(現所沢市久米)も同じ入間郡であり、2代弘包の確認出来る制作年

の初期頃から既に平塚家との血縁関係も推測出来ます。また、刀剣書の江戸打ちとは武州入間郡久米である可能性もありますが、明らかな資料は見当たらないため、これも今後の課題です。

寿次は刀鍛冶として幕末の動乱の中に生き、ひたすら鍛刀に情熱を傾けてきたものの、明治9年(1876)に施行された廃刀令と言う最も絶望的な事態に遭遇した時の年齢は49歳でした。その後、失意の日々を送った寿次も明治35年(1902)3月15日午後11時にその生涯を閉じました。行年76歳でした。(法名・一見桃悟居士)

7.文化財展で公開した日本刀の要目

刀 銘 武州久米住平塚信濃守末孫寿次作
銘文 武州久米住平塚信濃守末孫寿次作
法量 長さ 2尺3寸9分(72.5cm)
反り 3分5厘(1.1cm)

作風 鎚造、庵棟

- (地) 板目肌詰み地沸よく付く
- (刃) 匂がちの互の目乱れによく足入り所々小沸付き匂口明るく冴える
- (帽子) 直調で表裏共沸崩れて太く返る
- (茎) 生、鑢目は切り、目釘穴1個

弘包の受領銘に平塚姓を冠した物で弘包と平塚家の関係を裏付ける資料となった、地刃の出来の良い1口。他の刀工と比較すると鎚巾が狭く棟の庵角が急になっています。刃中の働きも見事で上半分にやや叢沸(むらにえ)が付く、茎の仕立ても丁寧です。確認されている寿次の鑢目は刀が切で脇差は化粧の付いた筋違です。



脇差 銘 武州久米住人君万歳寿次

銘文 武州久米住人君万歳寿次

法量 長さ 1尺1寸5分(34.8cm)

反り 僅か

作風 平造、庵棟

- (地) 板目肌よく詰み地沸よく付く
- (刃) 沸がちの互の目乱れの刃中砂流し金筋しきりにかかり匂い口明るく冴える
- (帽子) 乱れ込先尖り長く返りやや倒れる
- (茎) 生、筋違に化粧がかかる、目釘穴1個

脇差 銘 (表) 武州久米住源寿次(裏) 源光人造門人(瓢紋)

銘文 (表) 武州久米住源寿次

(裏) 源光人造門人(瓢紋)

法量 長さ 1尺1寸2分(33.9cm)

反り 1分3厘(0.4cm)

作風 平造、三つ棟

- (地) 表側は樹輪杳が現れ裏は部分的に板目流れて表裏共良く詰み地沸付く
- (刃) 小沸がちで良く揃った小互の目を焼き刃縁に細かな砂流し掛かる
- (帽子) 乱れ込み掃掛け気味に小丸に帰る
- (茎) 生、鑢目は筋違に化粧鑢がある。目釘穴2個



(表) 武州久米住源寿次



(裏) 源光人造門人(瓢紋)

所沢市寿町歴史的建造物整備活用事業の近況報告

国登録有形文化財「秋田家住宅」と敷地全体の整備及び活用を図るために、所沢市が進める事業の近況報告です。

「秋田家住宅」を整備・活用することによって、「所沢のまちば」の歴史・文化を伝え、「ふるさと所沢」を愛する心を育てます。併せて、様々な活動の展開を通じて日常的に市民が交流する空間の創出や、所沢駅周辺から西所沢エリア及び航空公園エリアなどへの回遊拠点のひとつとして、地域の商業や観光の活性化にも寄与することを目指しています。

令和3年～4年度

整備活用の基本方針を策定し、次の3つの活用方針を定めました。

**織物産業で栄えた明治・大正期の所沢の
まちばの賑いや魅力を今に伝える
多世代型の交流拠点とする
中心市街地の活性化や回遊性の向上を図る**



イメージ図

令和5年度

整備・活用方法の検討を進めるとともに、「秋田家住宅」の測量調査・構造調査・地盤調査などを実施して、現状把握を行いました。



レーザーによる建物測量



「土蔵」内部の計測

令和6年度

建築後100年以上を経過した建造物を整備するという特殊性に加え、活用に必要な機能を確保するためには、様々な法的な課題が発生するため、関連法令への対応について検討を行いました。

今後のスケジュール

公開活用までには、基本設計と実施設計に2か年、整備工事に4か年を想定しています。

特別公開（平成28年度～）

現在、年3回程度開催している特別公開では、建物内部の公開だけでなく、季節に応じた展示や中心市街地で開催されるイベントと連携した取り組みも進めています。



「野老澤雛物語」と連携した公開

秋田家住宅の概要

建物の見どころなど詳細は所沢市ホームページをご覧ください。



「文化財保存修理事業

～未来へ遺そう！ふるさと所沢の宝～

「秋田家住宅」を後世に守り伝えるとともに、幅広く活用するため、「ふるさと応援寄附」へのご協力をお願いいたします。

所沢市ホームページ
ふるさと応援寄附
(ふるさと納税)



市民の皆様のご寄付もお待ちしています。